



大町まちなか未来ビジョン

令和 6 年 3 月

信濃大町 100人衆会議



信濃大町100人衆会議 とは

信濃大町100人衆会議は、大町市の中心市街地（まちなか）が持続的に発展するための将来像（未来ビジョン）を共有し、これを実現するための公民学連携のプラットフォームです。

世代を超えて地域に思いをもつ人々が集まり、継続的なまちづくりに取り組むネットワーク形成を目指しています。



～100人衆会議の役割～

- ・ まちなかの未来をデザインし目指すべき方向性を見出す
- ・ 様々な主体が行っている既存の取組み・情報を共有し、連携を図る
- ・ 公共空間の活用も視野に新たな取組みを創出、支援

今回、信濃大町100人衆会議では、これまで開催された会議内容をもとに

「大町まちなか未来ビジョン」を策定しました。

大町まちなか未来ビジョン実現のため、市民の皆さんをはじめ官民等と未来ビジョンを共有し、様々な活動を行いながら、自立・自走型システムの構築に向けた取組みを目指します。

なお活動を通じて、適宜、未来ビジョンのブラッシュアップを図ります。



1. 大町のまちなかの魅力と新たな取り組み

- (1) まちなかの魅力と活かせる資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) “ひと”を繋ぐ新たな取り組み ～100人衆会議の取り組み～・・・・・・ 4

2. 大町のまちなかの課題と方向性

- (1) まちなかの課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (2) 来訪者の声を踏まえたまちなかの方向性・・・・・・・・・・・・・・ 9

3. 大町のまちなかの目指す姿

- (1) まちなかの目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (2) まちづくりの方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

4. 今後のまちづくりの進め方

- (1) 取り組み体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (2) 実現化に向けたロードマップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

1. 大町のまちなかの魅力と新たな取り組み



(1) 大町のまちなかの魅力と活かせる資源

清らかな水が流れる まちなか



水



雄大な北アルプスを背景にした まちなか



北アルプス

ひと



食



“おいしい”が集まる まちなか

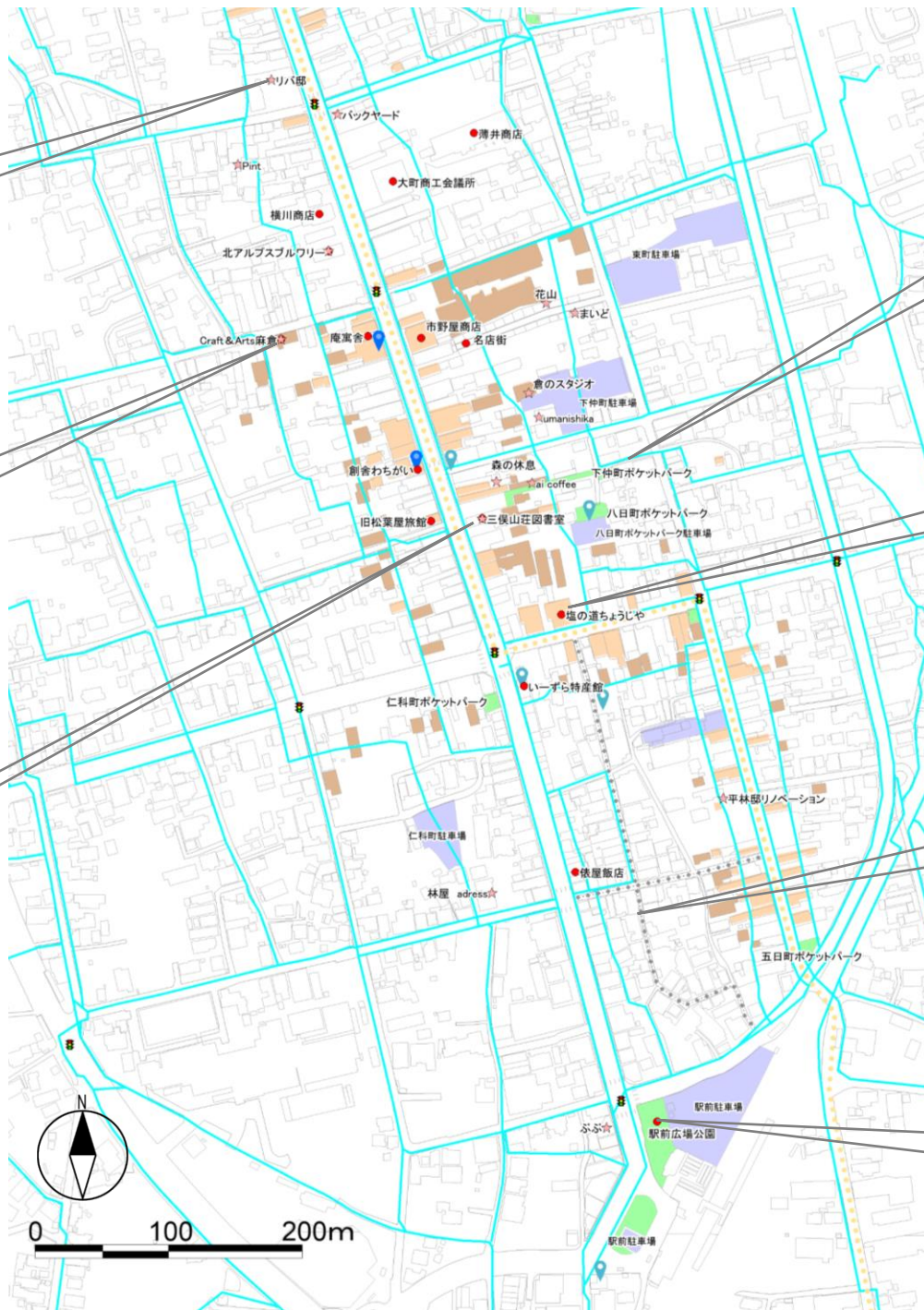


歴史



歴史を感じる建物が数多く残る まちなか





(2) “ひと”を繋ぐ新たな取組み ～100人衆会議の取組み～

① 信濃大町100人衆インタビュー（令和2～3年度）



大町岳陽高校の生徒が、地域資源を活かしたまちなかの再生、にぎわい創出活動を主体的に実施している“地域人”にインタビューし、その内容を冊子にまとめて“地域人”の魅力の掘り起こしを行いました。



出典：UDC信州



出典：UDC信州



② 信濃大町100人衆会議

信濃大町100人衆会議は、大町市の中心市街地（まちなか）が持続的に発展するための将来像（未来ビジョン）を共有し、実現するための公民学連携のプラットフォームです。世代を超えて地域に思いを持つ人が集まり、まちなかの未来について話し合っています。

●第1回100人衆会議（令和4年3月13日）

まちなかの魅力や課題、10年後の目指す姿についてワークショップで意見を出し合いました。そこで出された意見から今後のまちづくりのテーマがいくつか見えてきました。



第1回100人衆会議の意見で
見出された大町のまちなかのテーマ

●第2回100人衆会議（令和4年5月22日）

第1回100人衆会議の意見をもとに見出したテーマで「まちなかでこんなことができたらいいな！・こんなことしたい！」を出し合い、まちなかにぎわいの日常化に向けて具体的な取り組み内容を、駅前広場でワールドカフェ形式で話し合いました。



③ まちなかににぎわいを生み出す試行的な取り組み

●第1回にぎわい社会実験（令和3年10月22日～24日）

北アルプス国際芸術祭に併せて、信濃大町スイーツプロジェクトやシャッターオープンプロジェクトなど計7つのプロジェクトを同時開催し、まちなかに多くのにぎわいを生み出しました。

シャッターオープンプロジェクトでは、空き家や空き地を活用した取り組みが実践されました。



子どもたちがモルックを楽しむ空き地



多くの人が行き交う本通り



荷ぐるま市でにぎわう大町商工会議所前



滞留が生まれた下仲町ポケットパーク

●第2回社会実験 ～本通りでにぎわいのひとときを～ （令和4年11月19日）

まちなかのにぎわいの日常化に向けて、本通りの魅力向上につながる道路空間の活用の可能性を見出すため、本通りの一部区間を歩行者天国にし、沿道周辺と一体的に道路空間を活用してにぎわいを生み出す試行的な取り組みを実施しました。

これまでの100人衆会議で提案された意見をもとに「道路で楽しむ」「道路でくつろぐ」「道路で遊ぶ」の3つの取り組みを実施しました。

道路で楽しむ



「歩行者天国にして『市』を行う」という意見をもとに、荷ぐるま市とのタイアップにより、キッチンカーなどの出店が実現しました。

道路でくつろぐ



「溜まれる場所が欲しい」という意見をもとに道路にくつろぎスポットを創出しました。

道路で遊ぶ



「子どもが遊べる場所がほしい」という意見をもとに、道路にチョークでお絵描きを実現しました。



まちなかの未来について話す人々



保護者の方同士で話している姿



人工芝で走る子どもの姿

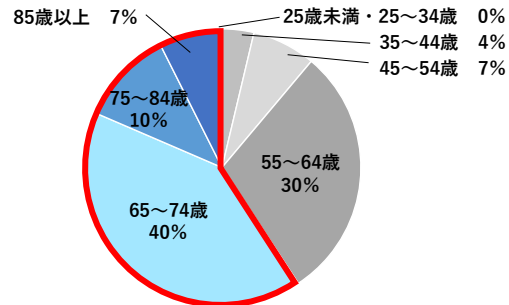
さまざまなにぎわいのシーンが生まれました。

2. 大町のまちなかの課題と方向性



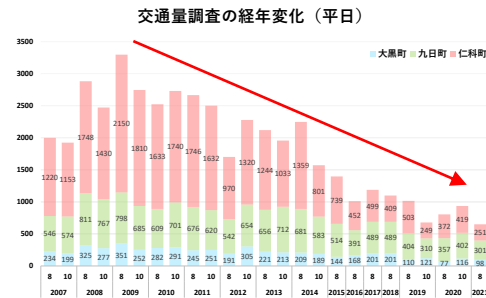
(1) まちなかの課題

高齢化の進行



上仲町・下仲町事業者アンケートの結果から、上仲町・下仲町の事業者の年齢は半数以上が65歳以上となり、事業者の高齢化がうかがえ、店舗の継続・継承が危ぶまれる状況にあります。

歩行者交通量の減少



過去15年間の本通りの歩行者通行量（各年8月）をみると、2009年にピークに年々減少し、2021年は、ピーク時の5分の1まで減少しています。

車中心の本通り



本通りの車の通行量も減少しているなかで、道路空間は閑散とした状況も見受けられます。路上駐車も多く、自転車の通行などにも支障があり、改めて道路のあり方を考える必要も感じられます。

空き家や空き店舗の増加



まちなかには空き家とみられる建物も増加しつつあります。本通り沿いにはシャッターの下りた空き店舗も目立つ状況にあり、借り手のニーズもあるものの、利活用は円滑には進まない状況にあります。

空き地の増加



本通り沿いでは空き家や空き店舗が解体され、その跡地が未利用のまま、空き地になっており、歯抜けの状態で放置されている状況にあります。

アーケードの老朽化



昭和50年代につくられた上仲町・下仲町のアーケードは老朽化が進み、錆や雨漏りも生じ、毎年補修が必要な状況です。倒壊の危険性もあり、今後のアーケードのあり方は喫緊の課題となっています。

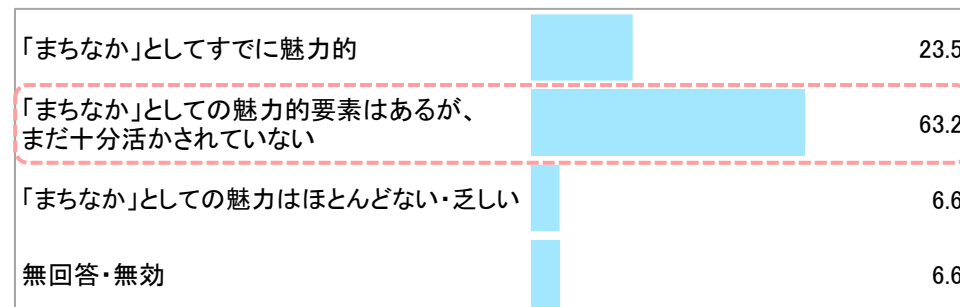


（２）来訪者の声を踏まえたまちなかの方向性

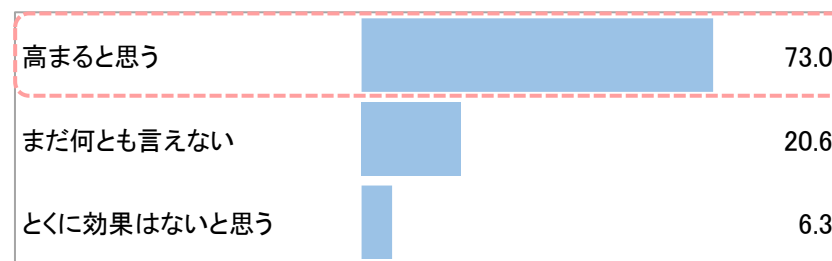
2021年の第1回社会実験時に調査した「まちなかの魅力度アンケート」では、8割が「まちなかとしての魅力的な要素がある」と回答している一方で、6割が「まだ十分に活かされていない」と回答していました。

また、2022年に道路空間を活用した第2回社会実験時に調査した「道路空間活用取組みでまちなかの魅力は高まるか」のアンケートでは、「魅力が高まる」と約7割が回答していました。

さらに、兩年の社会実験のアンケートの記述回答には、「まちなかににぎわいができてよい」や「定期的にイベントをしてほしい」などのにぎわいを望む回答が多くみられました。



商店街エリアの「まちなか」としての魅力度 アンケート結果



道路空間活用取組みでまちなかの魅力は高まるか アンケート結果

大町のまちなかはこのままでよいのか？

多様なひとを巻き込み、地域資源を活かした
取組みを通じて理想とするまちづくりを目指す

走りながら（様々な試行的な取組みを実践しながら）
みんなが共有できる（同じ方向を向ける）ビジョンを描こう！

3. 大町のまちなかの目指す姿



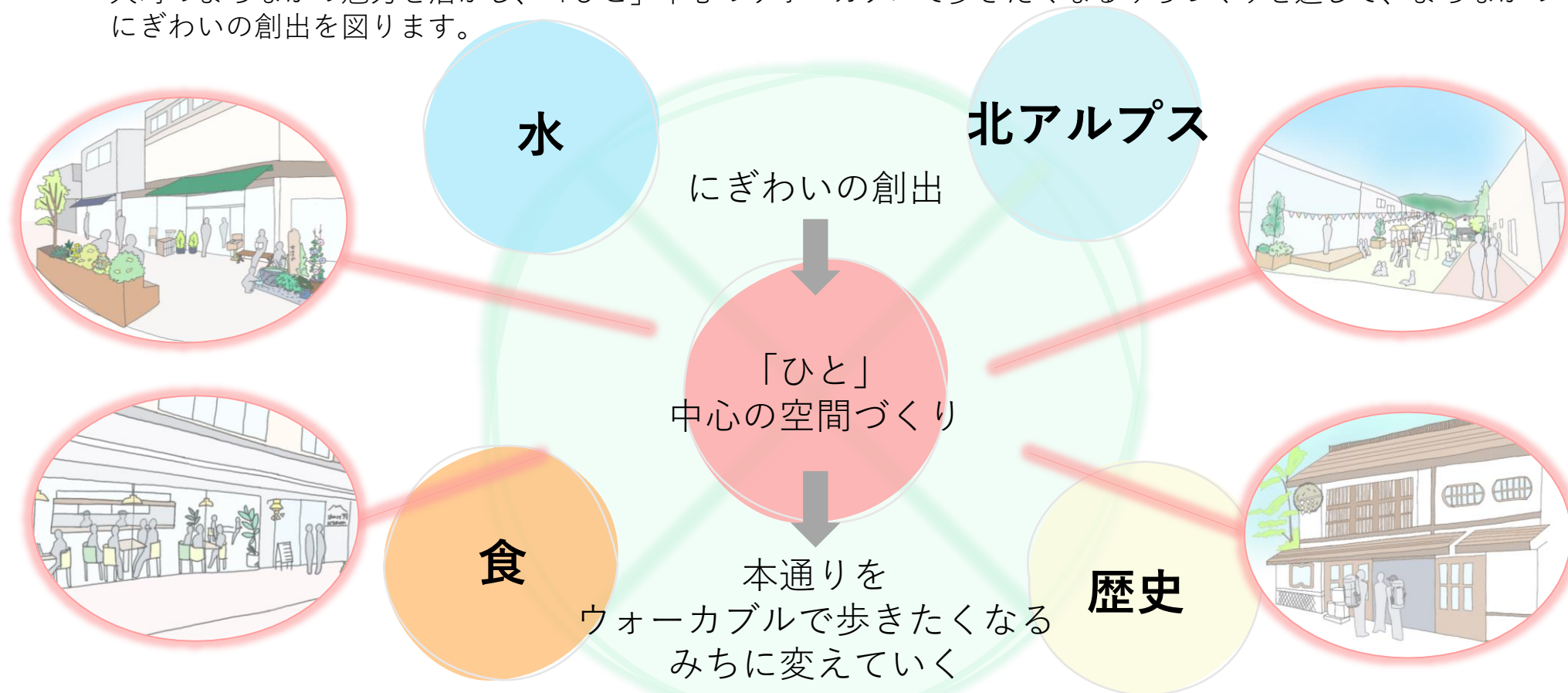
(1) まちなかの目標

いまでもイベントともなれば、どこからともなく多くの市民らが集まるまちなか。「やはりまちなかはにぎわう場であってほしい！」そんな市民や来訪者の声を踏まえて、市民の皆さんや観光客が大勢集まるように、『にぎわいの日常化』をまちなかの目標として定めました。

まちなかの目標 にぎわいの日常化

(2) まちづくりの方針

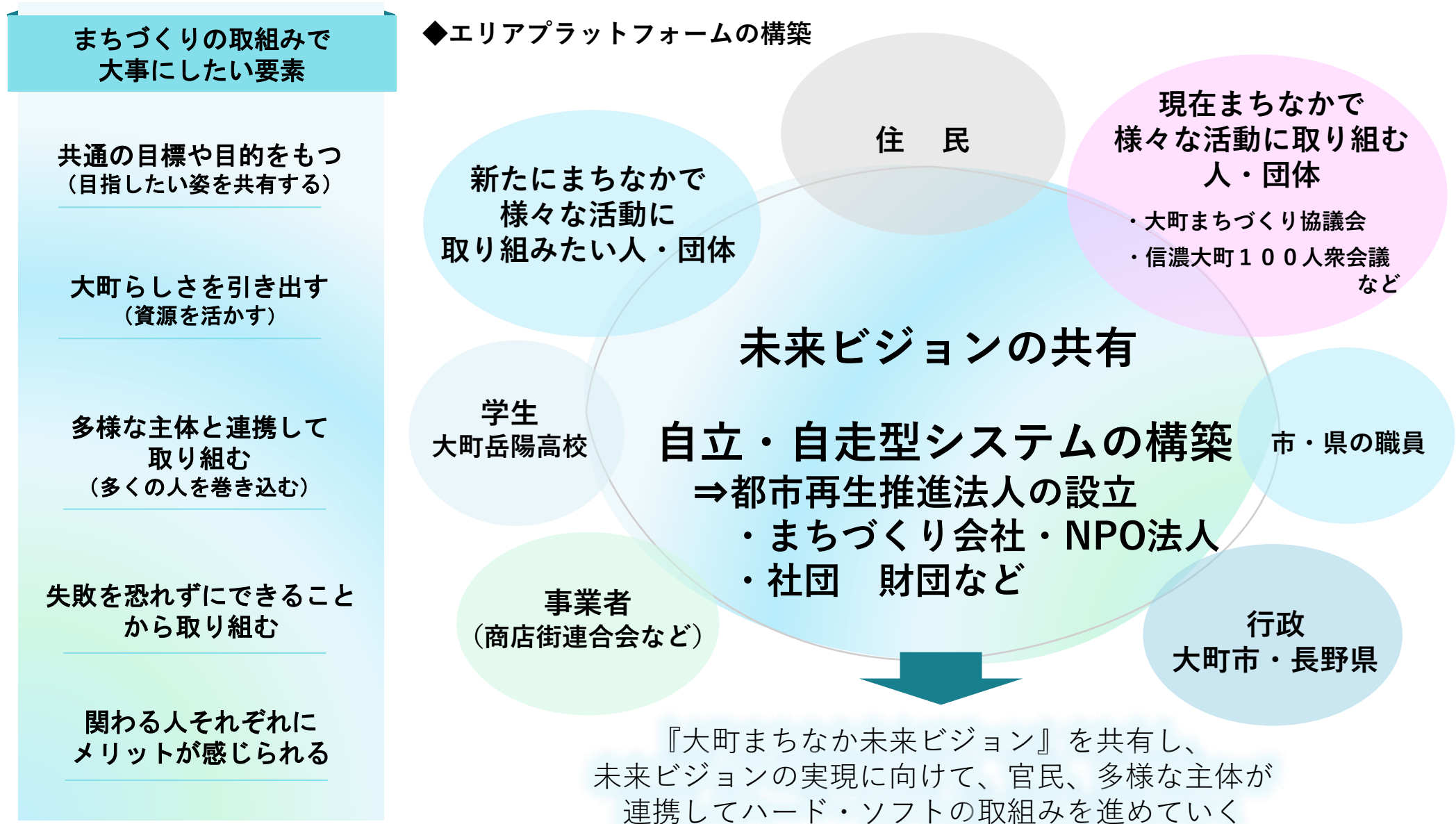
まちの顔、にぎわう場の中心は本通り。この目標の実現に向けて、「水」「北アルプス」「食」「歴史」など、大町のまちなかの魅力を活かし、「ひと」中心のウォーカブルで歩きたくなるまちづくりを通じて、まちなかのにぎわいの創出を図ります。



4. 今後のまちづくりの進め方



- (1) 取組み体制 まちづくりの目的や思いを共有できる様々な人や組織が参画できるエリアプラットフォームを構築し、ハード・ソフトの取組みを進めながら、自立・自走型システムの構築を目指します。





(2) 実現化に向けたロードマップ

2020
(R2)

2023
(R5)

2025
(R7)

2030
(R12)

短期
1～5年

中長期
5～10年

- 信濃大町100人衆インタビュー（大町岳陽高校との地域人紹介プロジェクト）
- 本通りの空き店舗を活用した取組みの試行（にぎわい社会実験、SOP、アンケート実施）
- まちなかの魅力の共有（まちあるき、WS）
- 道路空間を活用した取組みの試行（社会実験、アンケート実施）

▶『大町まちなか未来ビジョン』の策定

▶ウォーカブルなまちなかにするための取組み

▷アーケードのあり方検討

▷空き地を有効活用した取組みの実施

▷低未利用地の活用検討

▷歩行者優先の道路形態の検討

▶自立・自走型システムの構築

▷都市再生推進法人の設立

・まちづくり会社・NPO法人・社団 財団など